

大学

心理学部 心理学科

心理学基礎実習I a・I b

吉崎一人教授

目に見えない「心」を探っていく、
科学的な学修スタイルを身につける。

心理学の研究に用いる実験・観察・調査・面接の基礎を修得し、2年次以降の専門的な学びにつなげるのが、1年次前後期に行われる「心理学基礎実習I a・I b」です。心理学部では1、2年次の必修科目はすべて本学専任教員が担当します。この科目も8人の専任教員が各クラス(20〜25人を担当し、講義やグループワーク、個別作業を行います。記憶や錯視に関する実験、個人差に関する調査などを通し、目には見えない心の動きや無意識の行動について数値化して分析する、科学的な学修スタイルを身につけます。面接法の課題では、学生が身近な社会人にインタビュー。仕事のモチベーションにつながる「働きたい」の要因を探ります。担当教員の一人である吉崎先生は「仮説を立て、実験・調査し、データを分析して考察するという研究プロセスを経験し、論理的な思考力、仲間と協働する力などを磨いてほしい」と学生の人間的な成長にも期待を寄せています。



愛知淑徳の授業

生徒・学生の意欲に応え、一人ひとりの可能性を広げる愛知淑徳学園のさまざまな授業を紹介いたします。

大学

メディアアプロデュース学部メディアアプロデュース学科
都市環境デザイン専修

建築環境学実験

浅田秀男准教授

地球環境とつながる室内環境。
その専門知識を体験的に学ぶ。

人にとって真に健康的で心地よい建築とは——その答えを自然共生建築や自然エネルギーに着目して追究する浅田先生。担当する専門科目「建築環境学実験」では、室内外の気温・湿度、光、音などを学生自身に測定・調査させ、人を取り巻く環境の質をいかに高めるのか、深く考察する機会を用意しています。学生は普段過ごしている場所を客観的に分析することで、建築環境の理論を体験的に学び、空間設計に活きる広い視野を身につけます。「人々が生活する室内環境と都市環境、さらに自然環境、地球環境は、すべてつながっています。多様な命が共に生きる大きな環境、その構成要素のひとつとなる建築は、どうあるべきなのか、自分の軸を持ち、多角的に問い続けてほしい」。浅田先生は学生と議論し互いに切磋琢磨したいと思いを高めています。

